

樹木ミニミニ講座

雌花（まつぼっくり1年目）

まつぼっくりが～♪あったとさ～♪

針葉樹のマツ科は針状の葉と「まつぼっくり」をつけるのが特徴です。雌雄同株で受粉してその年に熟す1年型と翌年に熟す2年型の「まつぼっくり」があります。日本に自生するのは20数種。雨の日は果りんが閉じ、晴れた日には果りんがいっぱいに開いて中にある種を遠くに飛ばそうとします。

私たちは、松江市内で下のような「まつぼっくり」を見つけました。みなさんも形や大きさの違ういろいろな「まつぼっくり」を見つけてみましょう。



いろいろなマツの名前（まつぼっくりが大きい順）
①ダイオウショウ
②テーダマツ
③ヒマヤスギ
④モミ ⑤クロマツ
⑥アカマツ
⑦タギョウショウ
⑧ツガ

～ 水と緑の都・松江 ～

穏やかに水を湛え拡がる宍道湖。大橋川が東西に流れ中海と繋がります。北は島根半島、南は忌部高原の稜線。これ等美しい景色を臨む中に、水と緑の都「松江」があります。

松江市街を主要河川と山地によって大きく4つに分け、マップにしていっくシリーズ第2弾は「人の暮らしが息づく床几山周辺」です。このマップを通じて松江の豊かな自然を身近に感じて頂けるよう願っています。



制作：樹木マップ制作委員会
事務局 NPO 法人もりふれ倶楽部
Tel/Fax (0852) 66-3586 URL <http://www.morifure.jp/>
発行 松江市役所公園緑地課 Tel (0852)55-5369

2013年2月作成

松江樹木めぐり 人の暮らしが息づく 床几山周辺

●：常緑樹 ●：落葉樹

① アカガシ(ブナ科)

別名オオガシ。日本のカシ類の中でも葉が最も大きく全縁で葉柄が長いのが特徴。材が赤みを帯びることからこの名がある。材は硬く大工道具、農機具、木刀などに使用。



② アカメガシワ(トウダイグサ科)

荒地に真っ先に生える。新芽が赤く葉に食べ物をのせ器として使ったことが名の由来。雌雄異株。葉は胃潰瘍の民間薬に若芽は山菜として利用。



③ イヌマキ(マキ科)

暖地の山地に自生。雌雄異株。秋に赤紫色の花托に緑色の実をつける。赤い部分は甘く食べられる。庭木や生垣によく利用される。材は耐久性があり屋根板や桶に利用。



④ クサギ(クマツヅラ科)

日当たりの良い原野によく見られる。葉をもむと独特の匂いすることからこの名がある。夏にはがくが赤紫色で白い花を咲かせ、秋には果実が黒紫色に熟しよく目立つ。葉はお茶に、若芽は山菜に利用。果実や赤いぐくは染料に利用。



⑤ アベマキ(ブナ科)

別名コルククヌギ。クヌギの葉に似るが裏面が白いことと樹皮がコルク質であることで区別ができる。花の翌年に堅果(ドングリ)が熟す。コルク、薪炭材、建築材に利用。昔は粉すり機の歯に利用した。



⑥ クヌギ(ブナ科)

樹皮は灰褐色で厚く、縦に不規則な裂け目がある。春に咲く黄色いひも状の雄花がよく目立つ。花の咲いた翌年に丸い堅果(ドングリ)が熟す。樹液にはカプトムシやクワガタなどがよく集まる。シイタケの原木、薪炭材として最良、染物に利用。



⑦ クロキ(ハイノキ科)

暖地の沿海地に生える。樹皮が黒っぽいのでこの名がある。葉は厚く光沢があり。春には葉腋に白い花が集まって咲き強い香りがする。果実は秋に黒く熟す。草木灰を染物の媒染剤として利用。



⑧ ゴンズイ(ミツバウツギ科)

枝は黒紫色で折ると変わった匂いがする。葉は2～5対の羽状複葉。春に枝先に黄緑色の小さな花をたくさんつける。果実は10月ごろ赤く熟し光沢のある黒色の種子を出すのでよく目立つ。材がもろいことから役に立たない魚の名前がつけられたという。



⑨ サカキ(ツバキ科)

別名マサカキ。春に5弁の白い花をつけ次第に黄色味を帯びる。果実は秋に黒色に熟す。冬芽が弓なりに曲がるのが特徴。神社によく植えられ神事に利用される。神と人間の境の木として「境木」とされた。



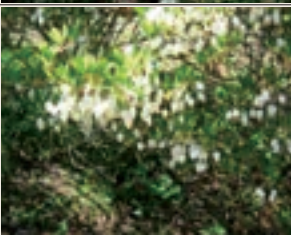
⑩ シンジュ(ニガキ科)

別名ニワウルシと呼ばれるがウルシ科ではないのでかぶれない。中国原産。街路樹や養蚕用として植えられたものが広く野生化した。葉は大型の羽状複葉で1m近くになる。カラスザンショウに似るが小葉のつけ根に2～3対の鋸歯状の突起があるのが特徴。



⑪ ドウダンツツジ(ツツジ科)

庭木や公園樹に利用される低木。細かい枝を多数出す。枝先に集まってつく葉はふちに細かい鋸歯がある。春、枝先に先に5裂したつぼ型の白い花を下向きに咲かせる。果実は楕円形で上向きにつく。秋には紅葉が美しい。



⑫ ネムノキ(マメ科)

明るい場所を好む。葉は長さ30cmの偶数2回羽状複葉。初夏枝先に淡紅色の筆を上げたような花が咲き、桃の香りがする。夜になると葉は垂れ下がり小葉を閉じて眠るように見えるのでこの名がある。秋には大きなえんどう豆ような実がぶら下がる。



⑬ ノグルミ(クルミ科)

別名ノブノキ。日当たりの良いところを好む。葉は羽状複葉で長さ20～30cm。6月頃新枝の先に穂状の花が数個上向きにつく。果実はトゲトゲしていてさわると痛い。この実を昔の女の子は櫛にして遊んだ。魚毒として使用。



⑭ ハクモクレン(モクレン科)

大きいものは15mになる。春には葉に先立って芳香のある大きな白い花が咲く。花びらは9枚。こぶし状のおもしろい実がなり熟すと紅色の種子が飛び出し白い糸にぶら下がる。



⑮ フヨウ(アオイ科)

中国原産といわれる低木。暖地の沿海地で自生している。日当たりの良いところを好む。7～10月頃10cmほどのピンクまたは白い花をつけるが1日でしぼむ。葉は掌状に3～7裂する。果実は10～11月に熟し5裂する。庭木、公園樹。



⑯ ヤマナラシ(ヤナギ科)

樹高は10～25mに達する。雌雄異株。葉は互生し長い葉柄が特徴。ばたばたと風に揺れる葉の音(山鳴らし)が名の由来。材は軟らかく加工がしやすいので箱などに利用されることから別名ハコヤナギとも言う。マッチの軸木に利用。



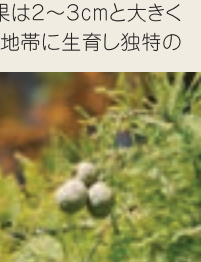
⑰ メタセコイア(スギ科)

別名アケボノスギ。中国原産。1945年中国揚子江の奥地で発見され生きた化石として話題となった。葉や枝が対生し、秋に葉や小枝がちりぢりに落ちて地面をレンガ色に染める。成長が早く樹形が美しいので公園によく植えられる。松江総合運動公園にはラクウショウと並んで植えてあるので2種の違いが良く分かる。



⑱ ラクウショウ(スギ科)

別名ヌマスギ。北米南部、メキシコ原産。葉は互生。枝に水平に並んでつく様子を鳥の羽に見立て、枝ごと葉が落ちることから落羽松の名がついた。花は葉が展開する前に開き、秋に熟した球果は2～3cmと大きく枝先に数個が房状につく。湿地帯に生育し独特の形をした呼吸根を地中から出す。松江総合運動公園で見ることができる。



←呼吸根

人の暮らしが息づく床几山周辺

床几山周辺エリアでは、かつて、八雲山(大東町との境)から伸びる山地〜古志原丘陵地〜緑山と緑地帯が続いていました。緑山をはさんで南の丘陵地の人々は、北の城下町へ薪炭を供給し、「売豆紀坂」など山越え道が、往時の南北交流をしのばせます。急速な市街化により多くの緑地帯が失われてしまいましたが、今日でも数多く残る地蔵や地主神などの石造物から、人々が自然と織りなした暮らしの息づかいを感じ取ることが出来ます。

田和山史跡公園

円成寺

床几山公園

馬の背坂

松江総合運動公園

松山トンネル

【旧広瀬・熊野往還(売豆紀坂、王子坂) ①】

馬の背坂がまだなかった時代に広瀬・熊野方面への道は、松山の尾根筋の道が主要道で古くから広瀬・熊野往還と呼ばれていました。売豆紀神社脇の売豆紀坂を通る道を広瀬往還、雑賀公民館あたりから南へ右手に大きな⑥クヌギの大木を目印に、王子坂を登る道を熊野往還と言います。松山配水場跡の少し東側に往還の合流地点があり、そこに「松江開府の径之碑」が建っています。その横には、目を見張るほどの⑤アベマキの大木があり、もう少し西へ歩くと⑧ゴンスイの木もあります。これらの道は、人々の往来や、松江城下の生活を支える薪炭等の輸送の幹線として、重要な役割を果たしました。

(売豆紀坂)

(クヌギの大木)

【床几山 ②】

松江開府の祖・堀尾吉晴、忠氏親子が城地を選定するために登った「元山」で床几(腰掛)に座り議論したことから後に床几山といいます。現在その城地選定場所は、「床几山公園」になっており、桜などが植わっています。そこから少し下った場所にある松徳学院前の配水池跡は、今は「花園の里」となっており、春になると、ヤマザクラ、ツバキ、ウメ、ヤマツツジ、⑩ドウダンツツジ、モクレンなどの花が咲き乱れます。

(床几山公園)

【円成寺緑地保全区域 ③】

円成寺は、松江城主であった堀尾家 3代の菩提寺で、堀尾家ゆかりの遺品が遺されています。また本堂裏には古木に囲まれて堀尾忠晴公の墓があります。正面階段を登り中門をくぐると、左手に⑭ハクモクレンの大木がひときわ目立っています。他にタブノキ、クスノキ、オオモミジ、③イヌマキなどがあり、裏山にはスダジイの大木が多くみられます。

【野代神社 ④】

出雲国風土記に記載され嫁が島の竹生島神社の管理もしている神社です。鳥居をくぐると大きなイチョウの木がありヤブツバキやエズリハ、ヒノキが生い茂る樹木のトンネルの階段を登れば境内にはスダジイの神木が圧巻です。その他、モチノキ、タブノキ、③イヌマキ、①アカガシの大木が立ち並び太古の息吹に触れることができます。

【浜乃木四丁目周辺 ⑤】

JR乃木駅の南東にある丘は、宅地化が進んでいますが、畑、雑木林が残っており、民間信仰の対象となる神仏も多く存在します。乃木駅から田和山方面に歩くとツバキ、エノキ、タブノキ、④クサギ等がみられ、地主神をお守りするようにヤマザクラの大木が数本あります。また⑩シンジュもみられ、引地坂の恵比須さんにはコノテガシワの大きな木があります。



縮尺:1/20,000

【緑山公園 ⑥】

松山の東端に位置し、広瀬・熊野往還の道沿いにあります。元は陸軍省の陸軍墓地のあった場所です。この公園には、アカマツ、⑥クヌギ、③イヌマキ、ソメイヨシノなどが植わっています。サクラの数が圧倒的の多く、城山と並ぶサクラの名所になっています。この公園から鍛冶屋坂を南へ少し下ると、右手に堀尾吉晴公を偲ぶ吉晴桜があり、さらに下ると、六部地蔵があります。



【松江工業高校 ⑦】

この場所は江戸時代には大根や桑や朝鮮人参等の畑でしたが、明治時代に旧歩兵第六十三連隊の営所になりました。周辺を宅地や幹線道路に囲まれた敷地内にはその後育ったタギョウショウ、イチョウ、③イヌマキ、クスノキなどが小さな森を作っています。



【山代神社緑地保全区域 ⑧】

出雲風土記に「山代社」とある神社で、元は茶白山にあったようです。参道を通り境内に入ると鬱蒼として、⑨サカキ、イチョウ、タブノキ、ナギ、クスノキの大木が本殿を囲んでいます。裏山は、スダジイ、①アカガシ、モミ等の大木がほとんどを占め、樹種の変化が少ない自然林の様相を呈していますが、モウソウチクが侵入を始めています。



【凡例解説】 緑地保全区域 … 無秩序な市街化を防止し、市民の健全な生活環境を維持するため、「松江市緑地及び自然環境の保全に関する条例」に基づき、松江市によって保全区域に指定された箇所

①～⑧: お勧めの木がある寺社などの施設を示しています。 ①～⑧: 皆さんに親しんで頂きたい樹木です。裏面に「樹木解説」があります。 あっぱれな木。是非、見ていただきたい木です。